

生産履歴は的確に記帳しましょう！

農薬を散布する時は必ず止め水とし、また、飛散に注意しましょう！

適正な穂肥・防除で、うまくてきれいな米づくり！

1. ゆめみづほの出穂時期は平年並みとなる予想です。

草丈はやや短く、茎数はやや少なく、葉齢は平年並みです。
中干を継続し、適正な穂肥施用に努めましょう。

◎ゆめみづほの出穂期予想 (平年出穂期 7月19日)

品 種 名	幼穂形成期	減数分裂期 (-15~-5)	予 想 出 穂 期
ゆめみづほ	6月23日~25日	7月4日~14日	7月18日~20日

※今後の天候次第で変動することがあります。

<注意> 減数分裂期は低温に最も弱い時期です。17℃以下の低温時は深水にしてください。

2. 中干しを継続し、無効分けつを抑えよう！

◎中干し実施期間：ゆめみづほは6月25日頃まで、コシヒカリは7月5日頃まで実施して下さい。

◎中干し後の水管理：常に足跡に水があり、田面が湿った状態を保つ。収穫5日前まで飽水管理を継続！！

砂壤土田などの水持ちの不良な田では、十分に湛水→自然落水→湛水→・・・を繰り返す水管理を実施して下さい。

◎フェーン対策：なるべく前日のうちに入水し、稲の消耗を回避して下さい。

3. 第1回穂肥施用時期の目安

品 種 名	幼穂長	基準葉色値
ゆめみづほ	1~2 mm	4.0

※圃場によって生育の差があるので、幼穂長を必ず確認してから施用すること。

◎施肥時期と施肥量

(単位：kg)

品 種 名	回 数	施 用 時 期	10a 当たり基準量		施用上の留意点 (裏面参照)
			BBいしかわ ライト550	BBいしかわ穂 肥一発055	
ゆめみづほ	第1回	6月25日~6月27日 (出穂前23日)	17	27	下記の場合は施用量を減らす。 ①葉色が基準葉色値より濃く、 出来過ぎで葉が乱れている 場合 (40本/株以上の場合) ②天候不順が続くと思われる 場合 ※ただし、2回目の穂肥は基準量 を施用
	第2回	7月8日~7月10日 (出穂前10日)	22	—	

4. 6月16日(土)~7月8日(日)は一斉除草期間とし、集落ぐるみで草刈を！

集落ぐるみで農道、畦畔の草刈を実施し、雑草地のカメムシ密度を低下させる。(裏面参照)

遅くとも7月上旬までに除草を実施して下さい。

*水田畦畔や農道等で刈り倒した雑草が、風や降雨により用排水路や河川に流れ込まないように留意！

5. 病害虫の適期防除に努めよう！粒剤は散布後7日間の止め水とする！

病 害 名	薬 剤 名	10a 当たり散布量	散布上の留意点
葉いもち	ブラシン粉剤DL	4 kg	発生が確認されたらただちに散布する。
紋枯病 (常発地)	リンバー粒剤	3~4 kg	7月上旬に散布する。 前年発生があった圃場も散布する。

*補植用稲は葉いもちの発生源になるため、早急に除去すること。

*葉いもち防除剤のオリゼメート1キロ粒剤を散布してない圃場は早急に散布する (ただし箱施薬剤無施用の場合のみ)。

<穂肥診断のポイント>

(1) 幼穂長から施用時期（基準日）を推定する。

穂肥施用日推定の目安

幼穂長 (mm)	出穂前日数	ゆめみづほ	コシヒカリ・五百万石
		穂肥施用の推定日	穂肥施用の推定日
0.5	-26日	3日後	8日後
1~2	-23日	今日(基準日)	5日後
2~3	-20日	ただちに	2日後
10~15	-18日	ただちに	今日(基準日)

(2) 生育量と葉色で、第1回目の実際の施用時期、施用量を決める。

生育量の目安	葉色	施用日	施用量
条間の田面が奥まで見える。	うすい	1~2日早める	やや多く
	4.0	基準日	やや多く
	濃い	基準日	基準量
条間の田面が手前20~30mくらいまで見える	うすい	基準日	やや多く
	4.0	基準日	基準量
	濃い	基準日	やや少なく
条間の田面が見えない。	うすい	基準日	基準量
	4.0	基準日	やや少なく
	濃い	基準日	少なく

<カメムシ発生密度低下のポイント>

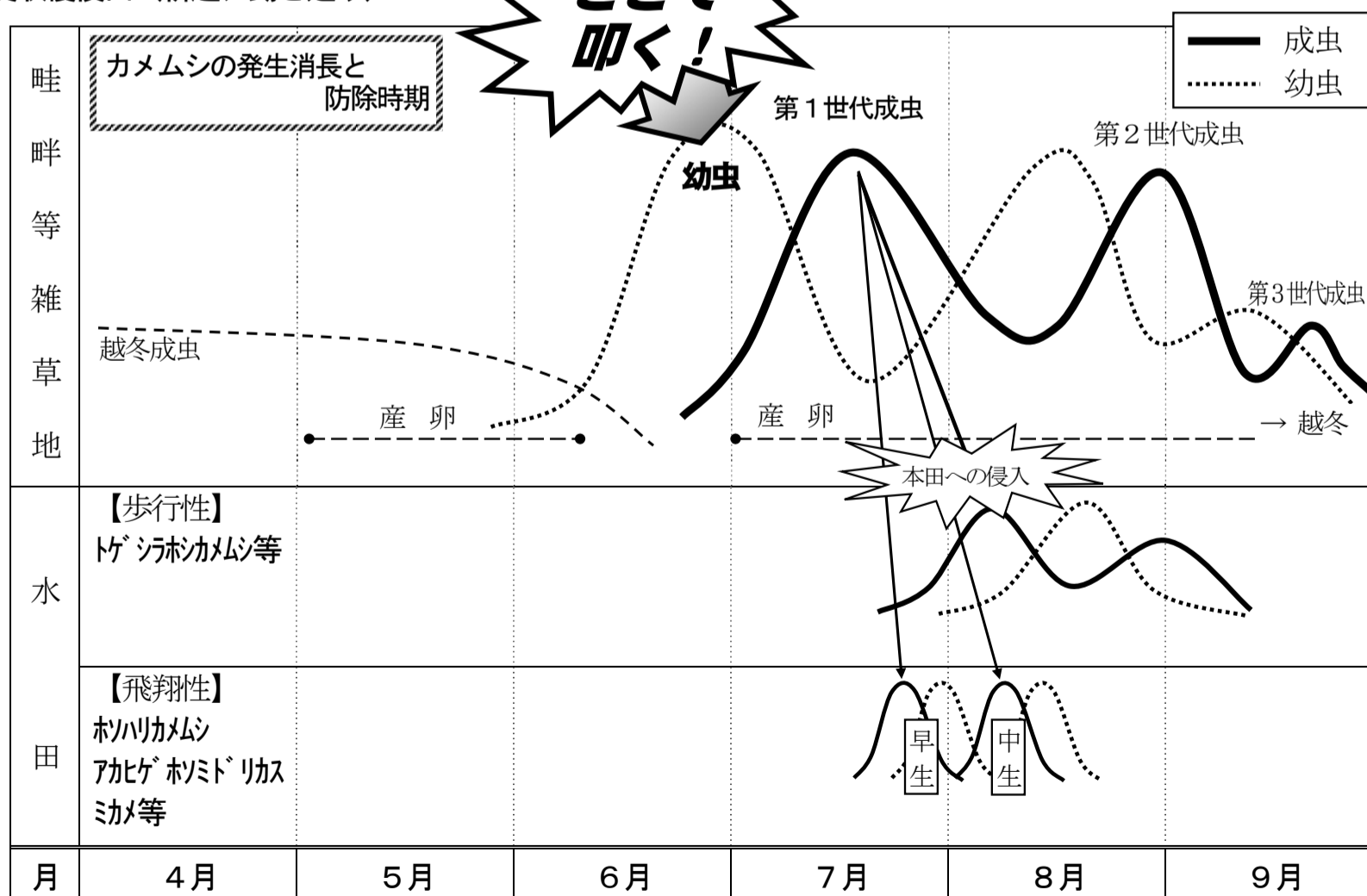
水田に入ってくる前の、雑草地のカメムシ密度を低下させる！そのためには…

(1) 農道、畦畔、休耕田等の草刈（除草）→カメムシのエサを無くする。

→幼虫は羽根が無いので移動範囲が狭い→**餓死**

(2) 休耕田の雑草地を防除する（スミチオン乳剤）

(3) 大麦収穫後田（耕起、鋤き込み）



※「雑草地の除草と基幹防除」で斑点米の発生は低減します。

なお、防除については次号でお知らせします。